
活字文化のグローバル展開戦略 2026

活字文化グローバル展開協議会

令和8年6月25日

本戦略の目的とターゲット

現状

- 我が国の活字文化は、質・量ともに非常に層が厚く、翻訳を通じて世界に発信される作品に対する国際的な評価が近年、急速に高まりつつある。
- 国際的なアワードへのノミネート・受賞が増えていることに加え、ポピュラーカルチャーや訪日旅行等を通じて日本文化への接点が増えていることも背景に、古典的作品や「癒し系小説」等もベストセラーに。
- 世界的な影響力を有するブックフェア等からも、日本を主賓国とするオファーが接到。（2027年ロンドン、2028年パリ）

我が国の多様で豊かな活字文化の創造・流通を維持・発展させていくためにも、今後の成長が見込まれる世界市場へ販路を開拓していくことが不可欠。

課題

- 一方で、**同一の作家でも作品単位で権利が分散していることや、多言語での情報やネットワークが不足していることから、海外出版社・フェスティバル等から日本市場へのアクセスに課題。**
- また、大きな国内市場の中でビジネスとして成立してきたことから、**海外展開のための人材や組織、公的支援も不足。**
- **一過性のブームに終わらせないような構造づくりや未来に向けた種まきが必要。**

本戦略の目的とターゲット

- グローバル展開への環境整備や人材育成は時間を要するものであり、長期的な目線で考えるべきものであるが、日本ブームを一過性に終わらせないためにもスピード感をもって、文化振興×産業振興（CBX）の視点で対応していくことが不可欠。
- **「日本の書籍の海外売上高を、中長期的に、全世界で増やす」ことを目標としつつ、予算化も視野に、今後官民連携により数年間で取り組むべき目標・施策の整理を行う。**

本協議会で検討してきた事項

戦略的海外展開タスクフォース及び中核的人材タスクフォースを設置し、計5回にわたり主に以下について集中的に議論。

1. 個社の垣根を超えた作家・コンテンツの戦略的な海外への売込み

- 個社を横断した、グローバル市場との一元的な窓口・発信機能の検討
- 日本の書誌情報等をグローバルに発信するデータベース機能の強化

2. 海外展開の中核的人材（翻訳家等）の育成

- 文化庁翻訳コンクールの機能拡充
- コンクール以外の翻訳家育成策や翻訳家のステータス向上に向けた取組
- 国際的に活躍する翻訳家同士、または翻訳家・作家・出版社を繋ぐネットワークの構築・拡充

3. グローバル展開に向けた国際的な拠点づくり

- JETROや国際交流基金と連携したグローバル市場での継続的な売込み・プロモーション拠点の形成
- 国際的なブックフェアでの戦略的かつ大規模なプロモーションやネットワークの強化
- 我が国における国際的なブックフェアやブックフェスティバルの拡充

タスクフォースを通じて浮かび上がってきた課題

我が国活字文化の海外展開を加速化するには以下のリソースに大きな課題が存在する。

① 人材・組織	海外展開 人材	翻訳家等	<ul style="list-style-type: none"> 一定以上の「質」が担保された文芸翻訳家の数が不足 文芸翻訳家としての育成プログラム（プレゼンテーション力等を含む）が未構築 海外の出版社等へ作品を紹介する「目利き人材」が不足
		海外ビジネス人材等	<ul style="list-style-type: none"> 海外事情に精通した売込み人材（海外ライツ担当等）が不足 海外市場へ向けて書籍・雑誌等の魅力をブランディング・キュレーションできる人材や中立的に海外出版社等と日本の出版社等をつなげる人材が不足 グローバルな価値づけを担うネットワークに接続できる人材が不足
	海外展開 支援組織	機能	<ul style="list-style-type: none"> 個社の垣根を超えた著作権問い合わせ窓口機能が不在 海外市場に向けた書籍・雑誌等のプロモーション、ブランディング機能が弱い
		拠点	<ul style="list-style-type: none"> JETROや国際交流基金等の海外事務所との連携強化が必要（特に影響力が強いロンドン、NY） 日本国内で国際的なブックフェアやフェスティバル等を実施する主体が不在
② 資金	翻訳助成	<ul style="list-style-type: none"> 日本の出版社等による海外売込みのためのファーストステップとなる英文企画書・サンプル翻訳助成（文化庁で実施）の規模が小さい ※R7 135件 ⇒ R8 175件（予定） 海外出版社等向けの翻訳助成の仕組みが不足 翻訳家に対する助成の仕組みが不在（翻訳出版に向けたピッチイベント等を含む） 	
	ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> 海外出版社等向けの訪日フェロシップ制度が不足 グローバルな価値づけを担う海外フェスティバル等への作家等派遣プログラムが不足 	

タスクフォースを通じて浮かび上がってきた課題

③ 場	海外ブックフェア	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランクフルトやロンドン等の主要なブックフェアでの<u>オールジャパンでのジャパングースの設置</u>やビジネスマッチングの機会が不十分。映像化権を含むIP展開にも課題。 ・ 名誉招待国の機会を活用したマンガ等を含む<u>日本文化の総合的な発信・ブランディング</u>が必要。
	国内ブックフェア	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>日本を代表する国際的なブックフェアやフェスティバルの不在</u> ・ B to Bの商談会である<u>Tokyo International Rights Meeting</u>の機能が不十分（特に、欧米の出版社等の参加や、B to Cの機能）
	海外書店、大学等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の有力書店や日系書店等での<u>戦略的なイベント実施</u>や<u>海外現地のファンコミュニティや日本語教育機関等とのビジネス面での接続やネットワーク活用</u>に改善余地
	ワークショップ・交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的なワークショップ実施による<u>翻訳家同士のネットワーキングの場</u>が不足 ・ <u>翻訳家・作家・出版社が交わる交流会</u>の不足

④ 情報	海外の情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外進出の検討の土台となる各国の<u>流通構造や商慣習、規制等の情報</u>が不十分 ・ 海外版權の効果的な売込みにあたって重要となる、<u>海外の有力出版社やキーパーソンの情報</u>が不足 ・ 海外での翻訳やプロモーションの支援者となり得る<u>日本文学・文化研究者、翻訳家等の情報や活用</u>が不足
	日本の情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の出版社向けのカatalogサイトが不十分、<u>キュレーション</u>が足りない ・ 日本の出版社や作家、商慣習等の情報の<u>発信が不十分</u> ・ <u>日本の書誌情報の海外向けデータベース</u>が不在

今後数年間で優先的に取り組むべき施策

長期的な視野では多様な言語での展開が不可欠であり、国際交流基金の役割が極めて重要であるが、文化庁ではビジネス面での国際的な影響力や効率性の観点で、当面は英語での展開を最優先に以下の取組を官民連携により速やかに展開。

国際交流基金等とも連携の上に翻訳コンクールを継続的に実施するとともに、新たにビジネス創出にも資する翻訳家や出版社職員等向けの人材育成策を実施。また、業界統括団体の海外窓口機能の強化を行う。

《文化庁翻訳コンクール》

- 令和8年度は現代文学（英語、フランス語）、古典（英語）の3部門を例年どおり実施。
- 令和9年度は現代文学（英語、ドイツ語）を実施。古典（英語）はコンクール以外での育成策も含め、検討。翻訳技術等だけではなく、プレゼンテーション能力等を強化する施策を実施。
- 加えて、国際交流基金等が実施する多様な言語による施策との連携強化を検討。

《翻訳家や海外ビジネス人材の育成プログラム》

- 令和8年度は過去の受賞者を中心に現代文学（英語）の対面型翻訳ワークショップを実施する（他部門はオンライン開催）とともに、出版社による海外展開に資するセミナー、翻訳家、作家や出版社等とのネットワーキングイベントを実施。
- 今後は、翻訳家向けのワークショップを継続するとともに、翻訳家や出版社職員等を対象に、ビジネス創出の機能を有するOJT型の人材育成プログラムも検討。

例：翻訳家と出版社のマッチングイベント（ピッチイベント等）の開催
出版社職員等の海外ブックフェア等への参加支援等を通じたグローバルビジネス人材育成
ピッチレター等の作成支援等

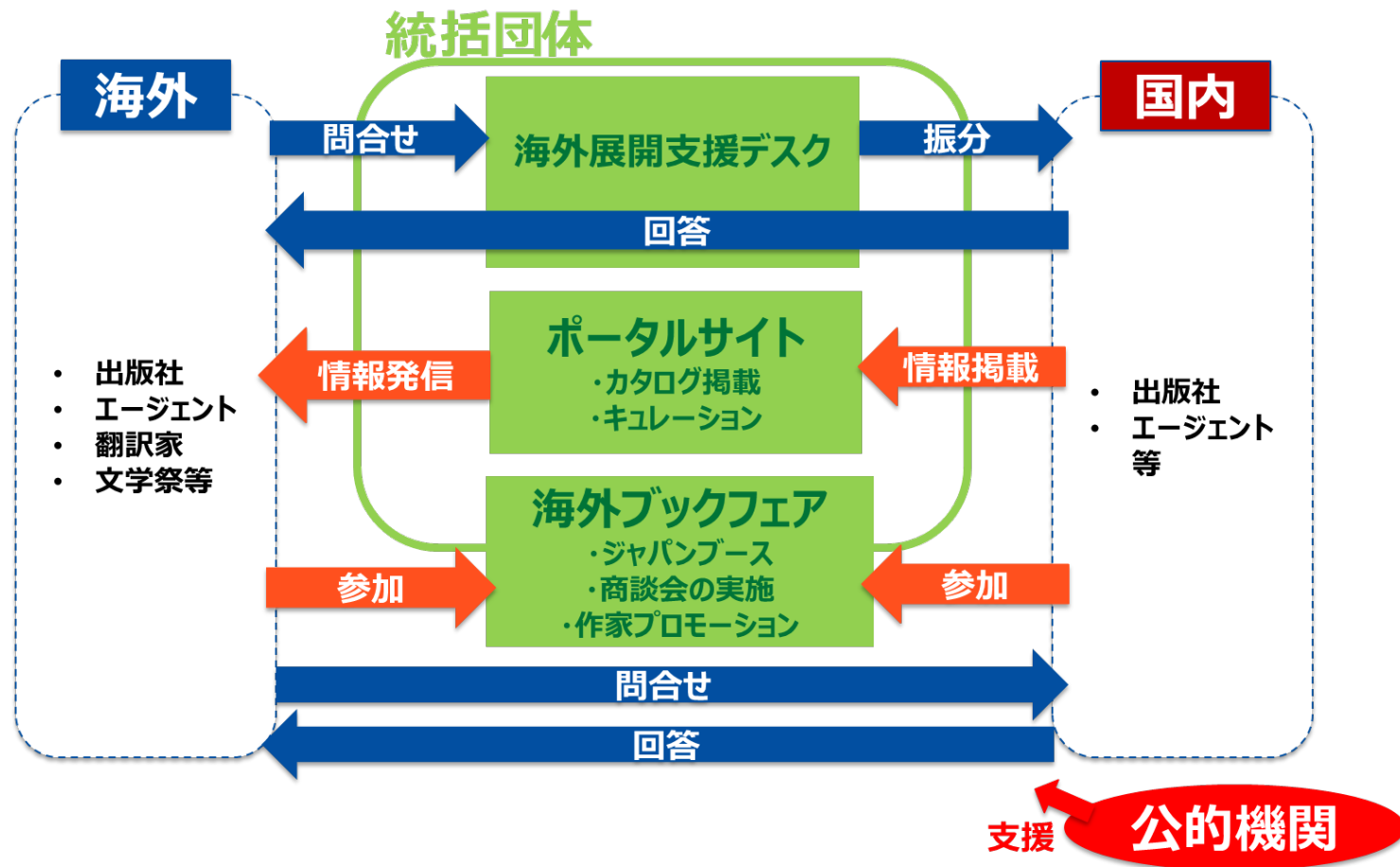
今後数年間で優先的に取り組むべき施策

① 人材 組織

《海外との窓口機能の強化》

- 業界統括団体に個社を横断した海外出版社・翻訳家等からの問い合わせ窓口（海外展開支援デスク）を創設するとともに、日本の出版社等への接続役を担うコンシェルジュ人材の育成に着手。
- 業界統括団体が運営するJapan Book Bankを日本の「窓」となる海外向けサイトとして構築・大幅リニューアル等をするとともに、業界統括団体を中核に海外ブックフェアをオールジャパンで展開し、個社横断的な情報発信・プロモーションを実施。

【組織イメージ】



今後数年間で優先的に取り組むべき施策

② 資金

海外展開にあたってのファーストステップとなるサンプル翻訳や企画書作成等の翻訳助成を一層拡充するとともに、優良出版社との成約率をあげるためのマッチング支援を充実する。

《英文企画書・サンプル翻訳助成の強化》

- 令和8年度は、日本の出版社等が作成する英文企画書やサンプル翻訳を助成する事業を、年2回の公募に変更。採択数は、英文企画書は同数（約110件）、成約の決め手となるサンプル翻訳は倍増予定（約30件⇒約65件）。
- 今後は海外展開をさらに加速化させるため、英文企画書やサンプル翻訳の助成をさらに強化するとともに、翻訳家が出版社とともに応募できる枠組みを創設するなど翻訳家育成にも寄与する仕組みに改善することを検討。
※海外出版社向けの翻訳助成の仕組みについては今後の継続課題。

《海外出版社等の招聘プログラムの実施》

- 令和8年度は、国際的な影響力を有する出版関係者等を招聘（5名程度）し、セミナーやネットワーキング等を実施予定。
- 今後は、出版社の垣根を超えた作家や書籍・雑誌をはじめとするコンテンツの海外売込みを加速するため、Tokyo International Rights Meetingをターゲットのひとつに、国際的な影響力を有する海外出版社向けの訪日フェローシッププログラムを創設し、我が国出版社や翻訳家、作家等とのネットワーク強化や売込みに戦略的に取り組む。

今後数年間で優先的に取り組むべき施策

③ 場

文化交流の場でもありビジネス展開の場でもある海外の主要なブックフェア等にオールジャパン体制で戦略的に出展するとともに、日本国内でも国際的な商談会の機能強化や文化交流やグローバルな価値形成の場となるフェスティバルの創設に向けた取組を加速化する。

《海外ブックフェア等へのオールジャパンでの展開》

- 令和8年度は、フランクフルト・ブックフェア等での展開に加え、ロンドン・ブックフェアでの主賓国の機会をとらえて ジャパングースの運営・設置や作家等の派遣やビジネスマッチング、書店イベント等を実施。
- 今後も業界統括団体を中核に、国際交流基金やJETROとも連携の上、継続的に主要なブックフェアで 出版社横断的な日本ブースの設置・運営や作家や書籍・雑誌をはじめとするコンテンツの統合的なブランディング・プロモーションを実施するとともに、2028年のパリ・ブックフェスティバルの主賓国の機会を活用し、オールジャパン体制で マンガを含む日本文化を総合的に発信。

《日本国内でのグローバルビジネス×フェスティバル機能の構築・強化》

- 令和8年度は、Tokyo International Rights Meeting (TIRM)や国際交流基金等とも連携し、文化庁翻訳コンクール授賞式及びシンポジウムを中核とした「国際文芸フォーラム」開催。有識者を プログラム・アドバイザーに迎え、出版社等とも連携の上、翻訳ワークショップや海外からの招聘プログラム等を一体的に実施。
- 今後は、出版各社やTIRMとも連携した上で、海外出版社等向けの 訪日フェローシッププログラムを創設し、B to B（著作権商談会等）の機能強化を図る。あわせて、我が国出版文化のグローバルな評価形成や読書振興に向けて出版関連業界や周辺業界を巻き込みつつ 国内外の作家・翻訳家・編集者等が参加する国際的なフェスティバルの創設に向けた取組を加速化する。

④ 情報

- ①～③の取組を通じ、海外の利用者や出版社からの意見を取り入れ、既存のサイト（Japan Book Bank）を活用・リニューアルしつつ、日本の書籍・雑誌や作家、業界情報等の収集・整備・発信を検討・着手。あわせて、海外の出版関連情報の収集・整備に取り組む。
- 加えて、我が国の包括的な書誌情報データベースの構築に向けて課題等の洗い出しを行う。